

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業
オープン・リサーチ・センター整備事業（平成 17 年度～平成 21 年度）
なにわ・大阪文化遺産の総合人文的研究

調査報告書

上町台地暮らしの歳時記



関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター

はじめに

関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センターでは、なにわ・大阪の地に根付いてきた文化遺産の調査・研究を進めるとともに、その成果を地域のみなさまに公開してきました。

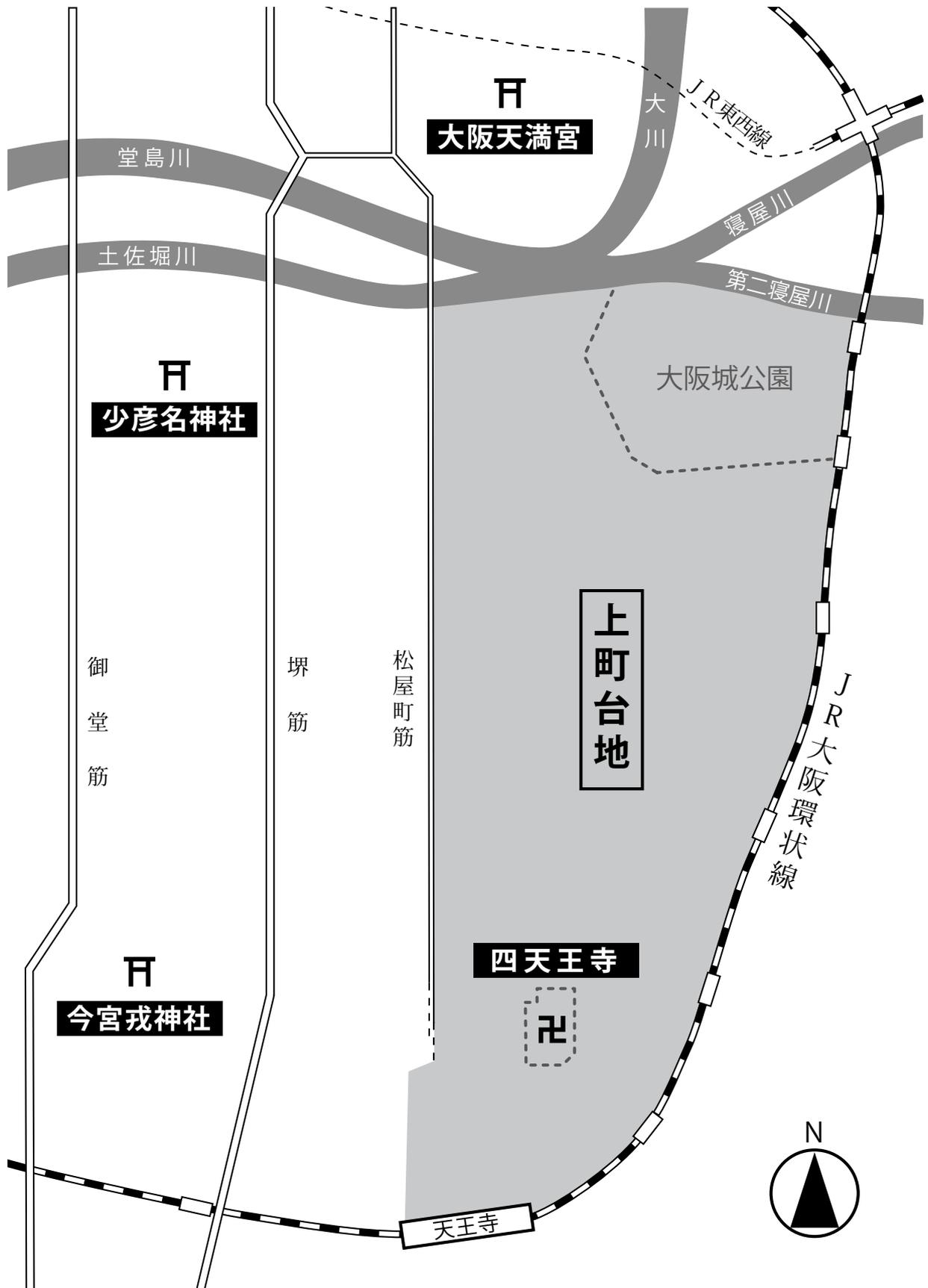
このたび、「上町台地暮らしの歳時記調査」を実施しました。上町台地は、大阪城から南へ細長く伸びた地域で、この地を中心に大阪の歴史や文化が育まれました。今回の調査は、上町台地に生まれ育った方がたから、戦中・戦後の上町台地における暮らしの様子を聞き取り、今とっては見られなくなった習慣や伝承を記録することも目的としています。本報告書は、「暮らしの歳時記調査」の成果をもとに作成しました。この報告書が、かつての上町台地における生活の様相を知る一つの手掛りになれば幸いです。

最後になりましたが、このたびの調査でご協力下さいました多くの方がたに、心より厚くお礼を申し上げます。

2009年3月

関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター

上町台地とその周辺



調査の様子



2008年8月7日 於 大阪市天王寺区役所



2008年11月19日 於 城東会館

上町台地の町の様子



ひぎり
中央区釣鐘町にある日限地藏



中央区谷町八丁目の「楠木大神」

目次

はじめに

1. 上町台地 暮らしの歳時記調査の概要
2. 上町台地 暮らしの歳時記調査・調査票
3. 調査結果一覧表
4. 戦中・戦後における上町台地暮らしの歳時記 ―調査結果から―
5. 上町台地の信仰と民俗芸能

話者の方がた・調査協力者・調査者

参考文献

例言

- ・本書は、平成20年度に実施した「上町台地暮らしの歳時記調査」の報告書である。
- ・本書の編集は関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター リサーチ・アシスタントの藤岡真衣・和住香織が行った。
- ・「3. 調査結果一覧表」および「5. 上町台地の信仰と民俗芸能」は和住が執筆し、「4. 戦中・戦後における上町台地暮らしの歳時記―調査結果から―」は藤岡が執筆した。
- ・表紙の写真は、大和万歳である。図版は、『上方』（上方新年号 第61号、昭和11年1月）より転載した。

1. 上町台地 暮らしの歳時記調査の概要

平成 20 年度に、「上町台地暮らしの歳時記調査」(民俗調査)を実施した。上町台地の生活にかかわる年中行事を確認することを目的とした本調査は、上町台地に生まれ育った方がたから、戦前・高度成長期以前の上町台地での暮らしの実相を聞き取り、記録するというものである。

調査では、上町台地と、かつてそこに住んでいた経験のある方がたを対象に聞き取りを進めた。また、年中行事の話とともに、特に思い出に残っている行事の話もうかがった。

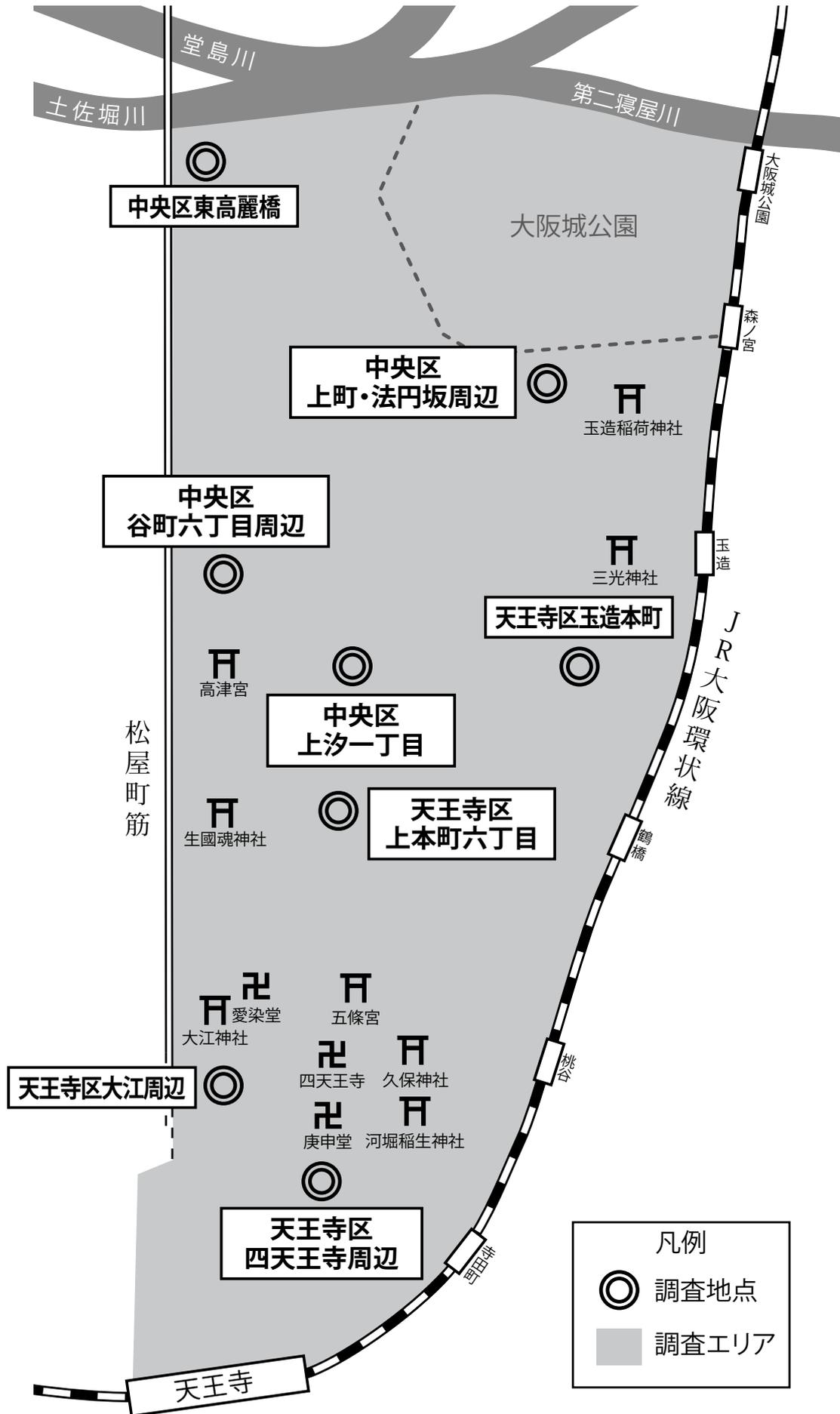
調査日程は以下のとおりである。

【上町台地 暮らしの歳時記調査の日程 (8ヶ所)】

天王寺区大江周辺	2008年 8月 7日
天王寺区四天王寺周辺	2008年 8月 11日
中央区上町・法円坂周辺	2008年 9月 29日
天王寺区上本町六丁目	2008年 11月 19日
中央区東高麗橋	2008年 11月 20日
天王寺区玉造本町	2008年 11月 26日
中央区上汐一丁目	2008年 12月 4日
中央区谷町六丁目周辺	2009年 3月 3日

調査をするにあたり、「上町台地 暮らしの歳時記調査・調査票」を作成した。調査票作成のために、『大阪府民俗地図—大阪府民俗文化財分布調査報告書一』(大阪府教育委員会、1984年)とその質問項目をまとめた「緊急民俗文化財分布調査 調査票記入要領」の年中行事・信仰の項目を主に参考とした。

調査地域



2. 上町台地 暮らしの歳時記調査・調査票

1月

1. 正月の準備

- － 1) 正月の準備はいつから始めましたか(12月13日など)。
- － 2) 正月の準備をすることを何と呼びましたか(「コトハジメ」など)。
- － 3) 歳暮などの年末礼をしましたか。

2. 餅つき

- － 1) 正月の餅つきはいつしましたか。
- － 2) 餅をついてはいけない日はありましたか。

3. 門松・注連飾

- － 1) 門松や松飾りなどはしましたか。
- － 2) 飾りをするのはいつですか。
- － 3) 家のどの場所に飾りますか。
- － 4) その他(玄関に紋幕をつける、など)

4. 鏡餅

鏡餅やその他のお供えはどこにしましたか。

5. 大晦日

- － 1) 12月31日を何と呼びますか(「オオミソカ」、「オオツゴモリ」、「トシコシ」など)。
- － 2) 大晦日にどのような食事をしましたか(年越し蕎麦など)。
- － 3) 正月の神(歳徳さん、年神さん)という言葉聞いたことがありますか。
正月の神を祀る神棚(年棚)はありますか。
- － 4) 大晦日の夜は眠りましたか(正月の神を迎える、あるいはいつ見る夢を初夢とするかということにかかわってくる)。
- － 5) 大晦日の夜に神社やお墓に参りましたか。

6. 若水・初水

- － 1) 大晦日の夜、または元日の朝に初めて汲む水を何と呼びますか (ワカミズ、ハツミズなど)。
- － 2) その水は、家の誰が汲みますか。
- － 3) その水を何に用いましたか (神棚に供える、書き初め、雑煮など)。

7. 三が日の雑煮

- － 1) 雑煮は誰が作りましたか。
- － 2) 雑煮の材料については、丸餅以外に何か入れますか。
- － 3) 元日、2日、3日は材料が変わりますか。
- － 4) 白味噌・すましのどちらですか。

8. 初夢・書初め (1月2日)

- － 1) 初夢はいつ見る夢のことを言いますか。
- － 2) 初夢について何か言い伝えを聞いたことはありますか (一富士・二鷹・三茄子など)。
- － 3) 宝船の絵を枕に敷いて眠りましたか (枕に敷いて眠るといい夢が見られる)。
- － 4) 書初めをしましたか。

9. 1月3日

正月三が日の終わりを何と呼びますか (「フクアカシ」など)。

10. 仕事始め

仕事始めはいつですか。

11. 七草粥 (1月7日)

- － 1) 7日を「七日正月」、前日の六日を「六日年越」と呼びましたか。
- － 2) 七草粥を作りましたか。
- － 3) 七草粥を作るときに唱えごとを言いましたか。

12. 鏡開き (1月11日頃)

鏡開きはいつですか。

13. 小正月・トンド（1月15日頃）

- － 1）小正月のトンドはどこで行いましたか（例えば寺や神社の境内など）。
- － 2）トンドの火や灰を使って何かしましたか（例えば小豆粥を作るなど）。
- － 3）小豆を使った料理を作りましたか（小豆粥、小豆御飯、ぜんざいなど）。
- － 4）粥で運勢を占うことはありましたか。その名称、占い方、目的などがありますか。
- － 5）小正月の前夜に大晦日と同じようなことをしましたか。

14. ヤブ入り（1月16日頃）

- 16日にヤブ入りをしましたか（実家に帰りますか）。

15. 二十日正月・骨正月（1月20日）

- － 1）この日を二十日正月や骨正月と言いましたか。
- － 2）そのときに餅（団子）などを作って食べましたか。

16. 大師講（1月21日）

- 21日の大師講（初弘法）に参りましたか。

17. 初天神（1月25日）

- 25日の初天神に参りましたか。

18. 1月の他の行事はありますか。

2月

19. 節分（2月3日）

- － 1）2月3日は何と呼びますか（「セツブン」、「トシコシ」など）。
- － 2）特別な食事をしましたか（麦飯・イワシやトロロ汁・豆御飯など）。
- － 3）柊にイワシの頭を刺し、戸口に付けましたか。
- － 4）豆まきをしましたか（豆まきはこの日だけですか）。
- － 5）豆を炒りましたか。
- － 6）炒った大豆を神棚や仏壇、神社に供えましたか。
- － 7）年の数だけ豆を食べましたか。

－ 8) 厄年の人は、どのような方法で厄除けをしましたか(寺社参拝、ぜんざいをふるまうなど)。

20. 初午

－ 1) 初午に稲荷をまつる祭りなどをしましたか。

－ 2) どこに祠がありましたか。

－ 3) 特別なお供え物がありましたか。

21. 涅槃ねはん (2月15日)

涅槃の日に団子やあられなどを作りましたか。

22. 2月の他の行事はありますか。

3月

23. 桃の節句 (3月3日)

－ 1) 3月3日は何と呼びますか (例えばヒナまつり、女の節句など)。

－ 2) 3月3日にはどんな料理を食べましたか (赤飯、ちらしずし、蛤の吸い物など)。

－ 3) この日には何をしましたか。(雛人形を飾る、嫁の実家から人形、菱餅などの贈答があるなど)。

－ 4) 雛人形はいつごろ飾り、いつまで飾っておきましたか。

－ 5) この日にはどのようにして遊びましたか (潮干狩り、山遊び、寺社に行くなど)。

24. 春の彼岸 (3月中旬)

－ 1) 彼岸の7日間には何か行事をしましたか。

－ 2) どこへお参りしましたか (お墓参り、四天王寺にお参りするなど)。

－ 3) 特別な食べ物を作りましたか (ポタモチなど)。

－ 4) 「彼岸の心ざし」といって、ポタモチを親類に配ることがありましたか。

25. 3月の他の行事はありますか。

4月

26. 卯月八日 (4月8日)

－ 1) 「ウヅキヨウカ (卯月八日)」「ヨウカビ」という言葉を聞いたことがありますか。

- － 2) 花飾り：この日にウツギ、シャクナゲ、ツツジなどの花を折ってきて、長い竹の先に
つけ庭に立てることはありましたか（天道花、八日花、夏花）。
- － 3) 寺の行事：この日、お寺で何か行事がありましたか（花祭り・灌仏会など）。
- － 4) 野崎参り：この日に野崎観音参りをしましたか。

27. 4月の他の行事はありますか。

5月

28. 端午の節句（5月5日）

- － 1) 5月5日は何と呼びますか（端午の節句・男の節句など）。
- － 2) 鯉幟や武者人形を飾りましたか。
- － 3) チマキや柏餅を食べましたか。
- － 4) 菖蒲で屋根を葺く・あるいは軒にさしたり、人や牛が菖蒲の鉢巻きを締めたりしましたか。
- － 5) 菖蒲や蓬を入れて風呂に入りましたか（「露の風呂」などと言いましたか）。
- － 6) この夜は女の威張れる日だということを聞いたことがありますか（女の家、女天下、女の夜など）。

29. 5月の他の行事はありますか。

6月

30. 天王祭・祇園祭（6月15日前後）

6月中に川や池のほとりで水の神をまつりましたか。

31. 茅の輪くぐり（6月30日）

6月晦日に茅の輪くぐりなどをしましたか。

32. 6月の他の行事はありますか。

7月

33. 半夏生はんげしょう（7月2、3日）

7月2日か3日の半夏生の日に関心しましたか。

34. 七夕（7月7日）

- － 1) 七夕は新暦で行ないましたか、それとも、旧暦で行いましたか。
- － 2) 七夕ではどんなことをしましたか。

35. 夏祭（7月中）

※ 印象に残っていること。

36. 7月の他の行事はありますか。

8月

37. 盆行事（8月12～15日頃）

－ 1）盆が始まる最初の日を何と呼びますか（「地獄の口開け」、「地獄の釜開け」など）。

－ 2）七日盆

・この日を何と呼びますか。

・この日に限ってすることはありますか（盆花迎え、水浴び、井戸替えなど）。

－ 3）精霊迎え

・先祖の霊はいつ迎えますか。

・先祖の霊をどのようにして迎えますか（唱えごとをする、迎え火を焚く
[オガラ、藁、松明] など）。先祖の霊：精霊さま、おしょうらいさん。

・お供え物はどのようなものですか。

・どのような行事をしましたか。

－ 4）新仏を迎えるときは、どのようにしましたか。

－ 5）無縁仏の供養をしますか（お下がりのお茶を家の外にまく、家の外の四つ角に水をまくなど）。

－ 6）精霊送り

・先祖の霊を送る「精霊送り」は、いつしましたか（8月15日朝など）。

・送り方はどのようにしましたか（供物・経木などを流す、精霊舟で送る、唱えごとをするなど）。

・送る場所はどこですか（水辺、墓地など）。

38. 地藏盆（8月24日頃）

地藏盆にはどのような行事をしましたか（お経、念仏、御詠歌、数珠くり。子どもに供物を配るなど）。

39. 8月の他の行事はありますか。（8月の大掃除・たたみあげなど）

9月

40. 月見（9月前半）

- － 1）お月見をしましたか。
- － 2）月見のお供え物は何ですか（ススキ、団子（団子の形は？）、芋類など）。
- － 3）風習はありましたか（月見の晩に子どもが供物を盗んでもよい、あるいは、他家の畑で実った野菜・果物を取ってもよい、など）。
- － 4）十三夜（豆名月・栗名月）
十五夜の月見をしたら翌月（旧暦9月）の十三夜にも月見をしましたか。

41. 重陽の節句（9月9日）

9月9日を中心に19日、29日などに餅や甘酒などを作ったり、茄子を食べたりしましたか。
（クニチ、オクンチ、ミクニチ）

42. 9月の他の行事はありますか。

10月

43. 亥の子

10月の亥の日、子どもたちがワラ束などで地面をつき、家々から餅をもらうことはありますか。

11月

44. 大師講（11月23日前後）

お大師さんのときには、何かしましたか（尊い旅人が家を訪れるので、もてなす為になにか料理を作る、など）。

45. 11月の他の行事はありますか（二十三夜、神農さん、報恩講など）。

12月

46. オトコツイタチ（12月1日）

この日に何かしましたか。

47. 針供養（12月8日）

- － 1）針供養はしましたか。
- － 2）どのようなことをしましたか（大根だきなど）。

48. 煤^{すす}払い

煤^{すす}払いはいつしましたか。また、どのような作法でおこないましたか（大晦日にするところもある）。

49. 冬至（12月22日頃）

－1）冬至の日にどのようなことをしましたか（カボチャを食べる、柚子湯など）。

－2）何か言い伝えはありますか。

50. 12月の他の行事はありますか。

【季節ごとに訪れる人に関する項目】

・一年を通じて、決まった季節にやってくる人たちはいましたか（伊勢神楽、薬売り、御師^{おし}など）。

【伝説・聖地に関する項目】

・地区内にある樹木や小祠、地蔵などで言い伝えがある場所はありますか。また、決まった日にお祭りがありましたか。

【宗教関係の講に関する項目】

・伊勢講や大峯講、金刀比羅講など、遠い場所にある寺社に関わる講や、庚申講などがありましたか。

・（ある場合は）どのぐらいの範囲の家数が参加していましたか。決まった日に集まりがありましたか。代参はありましたか。

【夏祭や秋祭や地蔵盆など特に思い出に残っている行事】

【印象的だった行事】

3. 調査結果一覧表

1月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
1. 正月の準備	準備をする時期	31日以前	×	31日当日	×
	特別な呼称がある (コトハジメなど)	×	×	×	×
	歳暮の礼をする	×	×	×	×
2. 餅つき	餅つきについて	昭和4、5年くらいまで賃搗き屋が来た。賃搗き屋は20日前後までに来ていた。最終29日くらいまで	賃搗き屋	自分のところでついた家で出来ない場合は賃搗き屋 本家なので、分家が総出で集まり、二石くらいついた	自分のところでついた
	決まった日に餅をつく	×	×	×	29日くらい
	餅をついてはいけない日がある	×	×	×	×
3. 門松・注連縄	飾りつけ	注連縄	注連縄	若松	注連縄 松飾
	飾りをする日	31日	——	31日	元旦
	場所	玄関	玄関、神棚、勉強机	床の間	店、三宝さん、はかりの上、自転車
	その他	玄関に紋幕 名刺入れ	——	玄関に紋幕 名刺入れ	玄関に紋幕 名刺入れ
4. 鏡餅	鏡餅・その他おそなえ	お飾りの場所と同じ	玄関 神棚 勉強机	床の間 仏間 神棚 三宝さん 仕事場 勉強部屋の机の上	——
5. 大晦日	呼称 オオミソカ/トシコシ	オオミソカ	トシコシ	——	——
	年越しそばを食べる	×	——	×	×
	歳徳・年神をまつる	×	×	×	×
	夜明かしをする	×	○	×	○ (仕事をしていた)
	夜の寺社詣でをする	×	×	×	×
6. 若水・初水	呼称がある 若水/初水	×	×	——	×
	水を汲む人がいる	×	×	男性	×
	用途	×	×	雑煮	×
7. 三が日の雑煮	調理する人	女性	女性	男性	女性
	餅の形状	丸	丸	丸	丸
	元旦	サトイモ・大根・人参・ほしえび/白味噌/餅	小芋・人参/白味噌/餅	小芋・大根・人参・豆腐・牛蒡/白味噌/餅	小芋・大根・人参・オヤキ(焼き豆腐)/白味噌/餅
	二日	ぜんざい	すまし/かしわ/水菜/餅	元旦に同じ	すまし/青菜/焼餅
	三日	定めなし	ぜんざい/三日ともすまし/定めなし	元旦に同じ	定めなし
	その他	こぶだし	特になし	こぶだし 餅はたくさん食べないといけない	特になし

ある：○、なし：×、不明：——で示した

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
31日以前	31日当日	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×
賃搦き屋が来たり、町内でついたりした	賃搦き屋	賃搦き屋	自分のところでついたり、賃搦き屋が来たりした
×	×	×	×
×	9の付く日には「苦がつく」と言った	×	29日には「フク」と言って餅をつくこともあった。
注連縄 門松	注連縄	門松 戦時中は門松の絵を書いた短冊	注連縄 井戸に餅 根引き松
——	31日	30日	31日
床の間、仏間、神さんには二つ重ねる、三宝さん	玄関、床の間、仏間、荒神さん、トイレ	仏さん、神棚、荒神さん、仕事場	——
——	玄関に紋幕 名刺入れ	玄関に紋幕 名刺入れ	なし
——	お飾りの場所と同じ	——	神棚 へっついさん 便所 仕事場・店
——	オオミソカ	オオミソカ	オオツゴモリ
×	×	○	○
×	×	×	×
×	×	○×両方あり	○
×	×	○×両方あり	○
——	初水	——	若水
男性	女性	×	——
供え物	雑煮	供え物	供え物
女性	女性	女性	女性
丸	丸	丸	——
大根・人参・豆腐/白味噌/餅	小芋・大根・人参・豆腐/白味噌/餅	小芋・大根・人参・ほうれん草/白味噌/餅	サトイモ・大根・人参・水菜/白味噌/あも(餅のこと)
すまし/水菜/餅	すまし/水菜/餅	すまし/餅	すまし/かしわ/焼いたあも
定めなし	定めなし	水菜/白味噌/餅	定めなし
特になし	こぶだし 2日のすましには柚子をいれることも	特になし	特になし

1月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺	
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)	
8. 一月二日	初夢・書初め	初夢を見る日	一日の晩	×	——	一日の晩
		「一富士・二鷹・三茄子」	——	×	——	——
		宝船の絵を知っている	○	×	○	×
		書初めをする	×	——	×	○(学校で)
9. 一月三日		呼称がある 「フクアカシ」	×	×	×	——
10. 仕事始め		仕事始めはいつからか	仕事始めは店によって 違う	——	えべっさんまで休み	暮れにたくさん働いて 出来るだけ長く休める ようにした
11. 一月七日	七草粥	呼称がある 七日正月／六日年越	×	×	×	×
		七草粥を作ったか	○	○	○	○
		唱えごとがある	×	カラコイカラコイ	×	記憶にない
12. 一月十一日	鏡開き	鏡開きをする	——	——	○	——
13. 一月一四～一五日	小正月・どんど	どこで行ったか	大阪天満宮	玉造稻荷神社	三光神社	高津宮
		小豆を使った料理 (粥／ぜんざい)	ぜんざいは他所ではし ていたが、家ではして いない	粥・ぜんざい	粥	粥
14. 一月一六日	ヤブ入り	ヤブ入りの時期	一月以外	一月	一月	一月
15. 一月二十日	二十日正月	呼称がある 骨正月／二十日正月	×	×	×	×
16. 一月二日	初大師	初大師に参る	自分には行かないが祖母 が参っていた	×	○	——
17. 一月五日	初天神	初天神に参る	○	×	×	○ (母が天満の出身)
18. 一月の他の行事		その他	なし	えべっさんへ参る	正月の餅花は、家では していないが、日の出 商店街ではやっていた	はったつさんへ参る (住吉大社)

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性)1931～47年 (女性)1937～47年
——	一日の晩	——	——
——	——	○	○
——	——	○	○
×	○	×	○
——	×	×	×
7日	4日	商売をしているところでは、えべっさんが終わるまでは働かない、というところもあった	4日
七日正月	×	×	×
○	○	○	○
唱えごとなし。七草粥の中にはお飾りの餅と干しえび、海苔を入れた	×	唐土の鳥が渡らぬ先に～	「唐土の鳥が日本の国へ渡らぬうちに七草ナズ(ソ)ナ」を繰り返す
○	○	○	○
生國魂神社 左義長と言っていた	四天王寺、生國魂神社	四天王寺、大江神社	四天王寺、大江神社、五條宮、生國魂神社など
粥	粥	粥・ぜんざい	粥・ぜんざい
——	一月以外	一月	一月・一月以外
——	×	×	二十日正月
○	○	○	○
×	×	×	×
なし	えべっさんへ参る(今宮) 正月は餅花を飾った(柳の木)	どやどや(1月14日)地元の人は参加しない。見ているだけ。テキ屋みたいな人たちが参加していた。	・どやどや(1月14日)地元の人は参加しない。とても危険な行事だったという認識がある。 東と西のケンカだった。 ・18日の庚申さん(二カ月に一度ある)昆布を焼いたらバチが当たる

2月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項		話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
19. 二月三日	節分	呼称 セツブン・トシコシ	トシコシ	セツブン	トシコシ	——
		鯛を食べる	○	○	○	○
		鯛の頭を柁に刺し、 戸口につける	○	○	○	○
		豆まきをする	○	——	○	○
		豆を供える ／神社へもって行く	炒った豆を供える	×	×	×
		年の数だけ豆を食べる (或は+1)	○	×	○	○
		厄年にする事	厄除ぜんざいをふる まった	厄年の男性はぜんざい をふるまう 高麗橋の菊屋のぜんざ いをふるまう	×	ぜんざいは12月12日 にふるまった
20. 初午	初午の行事をする	×	×	町内を巡る台車があった	高津宮の東側にあるの は知っているが家では しない	
21. 二月五日	涅槃 涅槃団子・あられをつ くる	×	×	×	×	
22. 二月の 他の 行事	その他	24日に日限地藏のお祭 りがあった 4のつく日に本町通ま で露店が出た	なし	なし	なし	

3月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
23. 三月三日	桃の 節句	3月3日の呼称がある	——	×	ヒナマツリ	——
		特別な食べ物がある	白酒、そばボーロを5 つくらい半紙に包んで もらった	×	蛤のお吸い物 白酒 菱餅	蛤のお吸い物 あられ 菱餅
		雛人形を飾る	——	×	お嫁入りのときに実家 から雛壇を持ってくる	姉妹がいたので、七段 飾りをしていた
		この日に限ったあそびがある	×	×	×	×
24. 彼岸	行事がある	祖母が四天王寺に参っ ていた 庚申塚で蒟蒻が売られ ていた	×	四天王寺か？	天王寺へ参る。墓は中 寺町の寺にある	
	食べ物	×	×	おはぎを食べる	ぼたもち	
25. 三月の 他の 行事	その他	なし	なし	なし	なし	

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 男性) 1931～47年 女性) 1937～47年
セツブン トシコシ	トシコシ	トシコシ	トシコシ
○	○	○	○
○	○	○	○
×	○	○	○
×	×	神社へもって行く	神社へもって行く
×	○	○	○
×	×	明治40年ごろにはぜんざいを ふるまっていたらしい	厄年の男性は周囲にぜん ざいをふるまった。 厄除はあびこ観音に行く こともあった。
玄関のところに稲荷さんを 祀っているが、初午など、特 に何もしていない	毎月決まった日に袴を着た人が着て 家のお稲荷さんに参りに来てくれる 人がいた。 湯立神事をした。釜は自分の家で用 意した。	×	商売人の家には神主がき てお祓いをした
×	×	×	×
なし	なし	2月11日、紀元節	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
ヒナまつり	オヒナサン	ヒナまつり	オヒナサン
×	ちらしずし 蛤のお吸い物 菱餅、雛あられ	雛あられ	赤飯、 ちらしずし 蛤のお吸い物
×	○	×	旧暦から飾って、新暦の3 月3日にはしまう。早くし まわないと婚期が遅れる。
×	小さな釜でご飯をたき、台所 の大きな釜にうつす	檀原神宮・熊野・金剛越え・ 生駒山など	×
最勝寺	四天王寺	四天王寺 秋の彼岸と同じ	四天王寺。竹林寺から一心 寺へ。お墓参り
——	おはぎを食べる	×	おはぎを食べる
なし	なし	太平寺：3月13日の十三ま いりは戦前から盛んだった	なし

4月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項		話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
		卯月八日	×	×	×	×
26. 四月八日	花飾り	ウツギ・シャクナゲ・ツツジなどの花を長い竹の先につけ、庭に立てる(天道花・八日花)	×	×	×	×
	寺の行事	寺の行事がある(花祭・灌仏会)	日限地蔵の甘茶まつりは知っている	×	×	やっていたかもしれないが、行ったことはない
	野崎参り	大東市野崎にある、野崎観音(慈眼寺)に行く	×	×	×	×
27. 四月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし	

5月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
28. 五月五日	呼称がある端午の節句／男の節句	——	——	——	端午の節句	——
	飾り	鯉のぼり 兜・装束	鯉のぼり 兜・装束	武者人形	鯉のぼり 兜・装束	武者人形
	特別な食べ物がある	×	——	——	チマキ 柏餅	チマキ 柏餅
	菖蒲屋根に上げる／鉢巻	屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる 鉢巻をする	屋根に上げる
	菖蒲湯に入る	○ (銭湯で)	○ (銭湯で)	○ (銭湯で)	○	○
	別呼称がある女天下／野良の節句働き	×	×	×	×	×
29. 五月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし	

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 男性) 1931～47年 女性) 1937～47年
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	○	×
×	×	×	×
なし	なし	なし	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
端午の節句	男の節句	×	端午の節句 男の節句
×	金太郎	鯉のぼり	鯉のぼり 武者人形
——	×	チマキ	チマキ 柏餅
屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる	屋根に上げる
○	○ (銭湯で)	○	○
×	×	×	野良の節句働き
なし	なし	なし	なし

6月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
30. 六月一五日前後	天王祭・祇園祭 水の神を祀る	×	×	×	×
31. 六月三十日	茅の輪くぐりをする	×	×	×	×
32. 六月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし

7月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
33. 七月一、二、三日 半夏生	呼称がある ハンゲショウ/ハゲッショ	×	×	「ハンゲッショ」 「ハゲショウ」 聞いたことがあるが、 よく覚えていない	——
34. 七月七日 七夕	新暦/旧暦	新暦 学校でやった	特になし	旧暦 笹を飾る 真田山で燃やす	新暦 幼稚園で飾りを作って 家に持って帰った
35. 七月中	夏祭	生國魂神社 (7月9、10日)	玉造稻荷神社	三光神社 玉造稻荷神社	高津宮 (7月18日)
36. 七月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
——	×	×	——
新曆 笹を飾る 四ツ橋へ行って流す	新曆 神社で燃やす	こだわらない	旧曆
生國魂神社 「屏風を玄関に飾る」	五條宮 生國魂神社	愛染堂(6月30日) 大江神社(7月15、16日) 五條宮 久保神社 河堀稻荷神社 生國魂神社	愛染堂(6月30日) 大江神社(7月15、16日) 五條宮 生國魂神社
なし	なし	なし	なし

8月	地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺	
質問事項	話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)	
	呼称がある 地獄の口開け ／釜開け	口開け	×	釜開け	ふたが開く	
37. 八月二日～五日頃	七日盆	特別な行事がある	×	×	井戸替え	×
	精霊迎え	霊を迎える日がある	×	×	×	12日
		迎え方	×	×	×	玄関でオガラを焚く
		お供え物	×	×	火はつけないが、玄関のひさしのところへ提灯をかざる	精進料理 そうめん
		特別な行事がある	×	×	×	――
	新仏	新仏の供養をする	×	×	×	×
	無縁仏	無縁仏の供養をする	×	×	×	庭に茶を撒く
	精霊送り	精霊を送る日がある	×	×	×	15日
		送り方	×	×	×	オガラを焚く
		場所	×	×	×	――
38. 八月二十四日頃	地蔵盆	行事がある	×	お婆さん達が集まり、御詠歌を歌っていた。のど自慢もあった	自宅の前にある地蔵は当家のものである 20cm四方×30cm高さの木枠(提灯)をつくり、その中に地蔵さんの絵の書いたものを入れ、近所各家へ配り、吊るしてもらった。中にろうそくがあり、その火が消えたら付けに行くのが子供の仕事であった。 真田山の上に住職が来て、数珠くりや御詠歌をした	子どもに数珠くりをやらせる 御詠歌をする
39. 八月の他の行事	その他	なし	ヤブ入り	なし	なし	
	たたみあげ	する 昭和10年くらいまで、夏の大掃除をしていた すす払いをした	する 大掃除	夏の大掃除。障子もはらい、掃除する。 食事を作ることができないので、昆布巻き屋や煮豆屋が売りに来た。	――	

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
——	口開け・釜開け	「地獄の釜が開くから仕事を してはいけない」という言い伝 えがあった	釜開け
×	×	×	おしょうらいさんを迎える。 井戸替はわからない。
×	13日～15日	13日の夕方から	7、10、13日のいずれか
×	玄関でオガラを焚く	玄関でオガラを焚く	玄関でオガラを焚く (7、10、13日のいずれか)
×	そうめん 季節のもの	そうめん(浄土宗) 高野豆腐 酢ごぼう ささげ 茄子(真言宗)	煮込み素麺、お迎え団子、 七色の寿司(禅宗)、七つのにゅう めんなど 14日には本人の好きなものを(毎 食違うもの) 胡瓜や茄子に割り箸をさし足を 作って立てる
×	お茶は頻繁に替えた	行事が済むとお供え物を四天 王寺に持っていった	お供えは13日から 13日にはお茶を何回も供える。供 えた茶は「無縁法界」と唱えて庭 先に撒く
×	提灯をかざる	×	新しい岐阜提灯を用意する 盆棚を設置する オガラで枠を作る
×	お下がりのお茶を家の外へ撒く。 家の四つ角にバケツの水を撒いた。	×	四天王寺へ参る
×	15日	15日頃	15日
×	お供え物をする	お供え物をする	×
×	四天王寺	四天王寺	四天王寺
・8月23、24日 ・4こずつ14列の提灯をかける ・かけ布を出す ・子供にお菓子を配る ・赤飯をつくる。白ご飯もある ・精進料理を作る(高野豆腐、 厚揚げ、かんぴょう、さつま いも・インゲンの煮たもの) ・こどもたちに配る	岩おこしをもらった	×	子供の名前を書いた提灯を吊るす
なし	なし	・8月10日、四天王寺の十日 参り(千日参り) ・8月21、22日、清水寺のお 大師さん。 ・四天王寺の開かずの門が8 月21日に開いた ・夜店(10、20日) 権寺町か ら四天王寺西門まで	なし
する	夏の大掃除	なし	なし

9月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
質問事項		話者の性別・生年	男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
40. 九月前半	月見	月見の行事をする	×	○	○	○
		お供え物がある (団子のかたち)	×	×	ススキ 団子(丸・小さい) 小芋	ススキ 団子(丸・小さい)
		風習(子供が供物を盗む)	×	×	×	×
		十三夜をする (豆名月・芋名月)	×	×	×	特におそなえはしないが、 この日は「月がよく見える」 といった
41. 九月九日	重陽の節句	重陽の節句をする	×	×	×	×
42. 九月の他の行事	その他	なし	なし	なし	なし	秋祭(10月18日)があっ て、学校が休みになっ た。

10月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
43. 十月亥の日	亥の子の行事がある	×	×	×	×	×

11月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
44. 十一月三日前後	大師講に参る	21日、四天王寺 露店がたくさん出ていた	×	×	お大師さんのときには 家の前を通る人が多 かった	×
45. 十一月の他の行事	その他	神農さん(11月23日) 大正時代あたりから盛 んに行われるように なった	なし	なし	報恩講 金屏風を出して玄関に 飾った	なし

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 (男性) 1931～47年 (女性) 1937～47年
○	○	×	○
団子(丸・小さい) 小芋	団子(丸・小さい) 小芋	ススキ 団子(細長い・餡巻き)	ススキ 小芋・豆
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×
なし	なし	大江神社の秋祭(9月15、16日)。ごく関係者の間で行われ、一般向けではない 彼岸は四天王寺におまいりする	秋祭より夏祭のほうが盛んだった

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
×	×	×	10月ではなく、12月の最後の亥の子の日に炬燵を入れたら火事が出ない、という言い伝えがあった。

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
×	×	×	×
なし	なし	神農さん(11月23日) 七五三	神農さん(11月23日) お十夜は寺の日程で決められていた

12月		地区	中央区東高麗橋	中央区上町・法円坂周辺	天王寺区玉造本町	中央区谷町六丁目周辺
話者の性別・生年			男性1名 1923年 (大正12)	男性3名 1930～41年 (昭和5～16)	男性1名 1924年 (大正13)	男性1名 1939年 (昭和14)
質問事項						
46.	オトゴノツイタチ 二月一日	この日にすることがある	×	×	×	×
47.	針供養 二月八日	針供養をする	近所の女の子が天満宮 でしていた 蒟蒻に針を刺す	×	あるのは知っているが うちではしない	蒟蒻に針を刺す
		大根だきをする	×	×	×	――
48.	煤払い 二月中	煤払いをする	×	×	○	×
49.	冬至 二月二三日頃	冬至の行事をする	柚子湯は銭湯がしていた 南瓜を食べた	柚子湯に入った 南瓜を食べた	南瓜を食べた	南瓜を食べた
		言い伝えがある	×	×	――	――
50.	十二月の他の行事	他の行事	なし	なし	なし	12月12日 厄年の人が三枳三升の ぜんざいをたき、近所 にふるまった

中央区上汐一丁目	天王寺区上本町六丁目	天王寺区大江周辺	天王寺区四天王寺周辺
男性1名 1921年 (大正10)	女性2名 1934年 (昭和9)	男性6名 1931～32年 (昭和6～7)	男性5名・女性3名 男性) 1931～47年 女性) 1937～47年
×	年寄りが「ツイタチマイリ」をしていた(石切神社や高津神社へ)	×	×
×	×	×	×
×	×	×	×
×	×	×	○ (大掃除をする)
思い出したら南瓜を食べる	柚子湯に入った 南瓜を食べた	柚子湯に入った 南瓜を食べた	柚子湯に入った 南瓜を食べた
——	柚子湯に入ると風邪を引かない	南瓜を食べて柚子湯に入ると風邪を引かない	×
なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・庚申さんには、縁日が出た。北を向いて蒟蒻を食べたら風邪をひかない、と言われた。 ・サルがいて、その前で歯ぎしりが治る豆が売られていた。 ・四天王寺の西門前で虫下しが売られていた。「セメン菓子」「まくり」と言った ・12月14日、赤穂浪士の祭典をしているところもあった。 	なし

(一覧表作成：和住 香織)

4. 戦中・戦後における上町台地暮らしの歳時記

— 調査結果から —

上町台地の聞き取り調査は、中央区東高麗橋、同区上町・法円坂周辺、同区谷町六丁目周辺、同区上汐一丁目、天王寺区玉造本町、同区上本町六丁目、同区大江周辺、同区四天王寺周辺の計8カ所で行った。調査では、戦前から戦後・高度成長期以前に行われていた暮らしの行事や習慣、その共通点や差異について知ることができた。今回の調査結果から、当時の生活状況の中で営まれた年中行事の諸相についてみてみたい。

また今回の調査報告の内容から、年中行事の思い出が改めてよみがえってくることもあるだろう。適宜ご指導いただけたら幸いである。

12月末～1月

【正月の準備】

正月の準備は、年を越す直前の12月31日か、もしくは少し前から始められる。特に商家では、31日の深夜まで仕事をしていた。餅搗きは、賃搗き屋^{ちんつ}がまわってきて搗いてもらったところもあれば、自分で搗くなどさまざまであった。賃搗き屋は、臼や杵など餅搗きの道具一式をリヤカーに乗せて頼まれた家々をまわり、その場で火をおこしたり、餅をこねていたという。餅を搗く日は、9は苦に通じるとのことから、29日を避けることが多かったようだ。しかし、家の都合によっては29日でも餅を搗く場合があった。

31日は、「オオミソカ」、「オオツゴモリ」、「トシコシ」など様ざまな呼び方があったようである。注連縄や鏡餅は、30日から31日にかけて玄関・神棚・床の間・仏間・荒神さん・へっついさんなどに飾られるところが多い。商家では鏡餅は仕事場にも飾られ、話者の子供時分には勉強机にも供えられた。注連縄は神聖な場所であることを示すとともに、不浄なものや邪悪なものの侵入を防ぐための意味合いがある。一方、正月に年神（歳神）を迎えるという話は聞かれなかった。

また、31日から正月にかけて、商家では玄関に家紋入りの幔幕（紋幕）を張る家があった。玄関には盆や三方を置いて、年始に訪れる人がそこに名刺を入れて挨拶代わりにしたようだ。また、店員が近所や得意先に名刺を入れに行った。いわば年賀状の代わりのようなものだった。

【正月行事】

若水・雑煮

正月一日の一番最初に汲んだ水を若水（初水）という。汲まれた水は供えられるか、雑煮を作るのに用いられた。三が日のお雑煮は本来男性が作るが、調査によると当時は女性によって作られるところが多かったようである。雑煮に入れる餅は丸餅で、一日は白味噌、二日はすましに水菜、三日は一日目と同じ白味噌か、特に決まりはないというものであった。

初夢

初夢は、正月一日の晩から二日の朝にかけてみる夢のことである。「夢見がよい」ということで宝船の絵を枕の下に敷く、というのを聞いたことがあるとのことだった。

仕事始め

仕事始めは、正月一日または二日、もしくは三が日は休んで四日から仕事を始めるなど、商家によって日にちが異なる。十日戎が終わる迄は働かないというところもあった。

七草

正月七日には七草を入れた粥を食べる。七草粥は、病気を祓う除災の意味合いがあるとされている。調査によれば七草を刻む時の唱えごとは、母親の出身地によって異なっていたようである。その唱えごとには、「カラコイ カラコイ」（母親が奈良の多武峰出身）、「唐土の鳥が日本の土へ渡らぬ先に七草とんとんとん」（両親とも京都出身）、「唐土の鳥が日本の国へ渡らぬうちに七草ナズ（ゾ）ナ」などがあったようだが、完璧に覚えている人は少なかった。

小正月・ヤブ入り

正月15日に前後して、小正月の行事が行われる。調査では、正月の飾りである注連縄などを寺社の境内に集めて焚くトンド（左義長）の行事がある。話者が住んでいた地域によってトンドを行った場所は異なる。例えば、上町台地の北部では大阪天満宮・玉造稲荷神社・三光神社に行き、南部は四天王寺・高津宮・生國魂神社・大江神社・五條宮などへお飾りをおさめにいった。この日には、家で小豆粥やぜんざいを作った。

ヤブ入りは、奉公人や嫁が里帰りをする日である。調査によると、商家では正月と盆の時期にも若い職人や女子衆（女中）を帰省させた。

また正月中の行事では、10日は十日戎、21日は初弘法、25日は初天神、最初の辰の日は初辰、庚申の日には初庚申などがあった。特に14日に行われる四天王寺の「どやどや」は、元旦から始まる修正会（その年の繁栄を願って行われる法会）の最終日に、僧侶たちが祈禱した牛王宝印という護符を裸の若い男性たちが奪い合う行事である。現在は近所の中学生・高校生によって行われているが、調査によれば、昭和初頭までは四天王寺周辺に住む地元の人びとは全く参加していなかったという。当時は近在の農民や漁師が中心となって盛大に行われ、豊作・豊穰の護符をめぐって奪い合い、けが人が出るほどであった。そのため、子供が見物するのには非常に危険な行事でもあった。戦後の一時期にはだんだん寂れ、少ないときには5、6人ぐらいにまで減ったこともあったようである。

2月～3月

節分

立春前日の節分は、「トシコシ」、「セツブン」とも呼ばれている。鰯を食べ、豆まきをするところが多い。厄年の人はぜんざいをふるまった。また、上町台地の南の方では厄除といえ、吾彦山大聖観音寺（あびこ観音）を訪れる人が多かったようで、豆を小さな袋に入れて寺におさめたという。

初午

立春から最初の午の日に稲荷をまつる初午の行事では、お稲荷さんをまつっている商家に神主が訪れてお祓いをしたという。

雛祭り

雛祭りは「桃の節句」、「ヒナまつり」、「オヒナサン」などと呼ばれ、雛人形が飾られた。嫁入りの際に実家から雛壇を持ってきたところもある。戦前は雛人形のある家が少なかったため、近所で人形を飾っているところへ見に行った。この日には、ちらし寿司・蛤のお吸い物・白酒・菱餅・雛あられなどを食べた。

彼岸

彼岸は、春分・秋分の日とその前後3日間で、四天王寺や一心寺などへお参りに行く人が多かった。特に四天王寺の境内には、さまざまな店や催し物がでたという。話者によれば、「地獄極楽」ののぞき（のぞきからくり）や、蛸蛸踊たこたこが印象深かったという。蛸蛸踊は大道芸の一つで、張りぼての大きな蛸を頭からかぶって踊るものだった。こうした催し物も、四天王寺における彼岸参りの楽しみの一つであった。

十三まいり

3月13日の天王寺区 太平寺の十三まいりは、戦前から盛んであった。十三まいりは、13歳になった男女児が厄落とし・開運・知恵授け・福貴いのために知恵と福德の仏様である虚空蔵菩薩にお参りする行事である。話者の中には、試験が合格するようにと行って参拝したことがある人もいた。1945年（昭和20）3月13日の大阪大空襲の際には天王寺の周辺が被災したが、十三まいりは行われていたという。

4月～6月

花祭り

花祭りは釈迦の誕生日といわれる4月8日に、釈迦誕生仏に甘茶を注いでまつる行事である。調査では四天王寺、中央区釣鐘町ひざりの日限地蔵で甘茶まつりが行われていたことがわかった。

卯月八日

旧暦4月8日を「ウヅキヨウカ」または「ヨウカビ」と呼び、竿の先に花をつけて立てる習慣が大阪府下にあった。明治の頃までは、市内でも花屋がこの日のために山つつじなどの花を売りにきていたようである。この花は「テントウバナ」（天道花）と呼ばれ、現在においても能勢町長谷などで見ることができる。今回の調査によれば、上町台地でテントウバナを飾る行事はなくなっているようである。

端午の節句

5月5日は「端午の節句」、「男の節句」と呼ばれた。鯉幟や武者人形、兜や装束などを飾り、チマキや柏餅を食べた。天王寺・玉造での調査によると、女の子は菖蒲をかんざしにして髪に飾り、男の子は菖蒲の鉢巻きをしたという。菖蒲は邪気を祓い、災厄から免れるという言い伝えがある。また、屋根の上にも菖蒲をあげたり、軒にさしたりした。さらにそれを一袋にして風呂に入れたという。銭湯でも菖蒲を束ねたものが浮かべられた。

天王祭・祇園祭・茅の輪くぐり

6月中旬には川や池のほとりで水の神をまつる行事が行われたり、晦日には茅の輪くぐりをす

るという行事があるが、調査ではそれらの行事はほとんどの地域で聞かれなかった。

7月～8月

夏祭

大阪の夏祭は、「愛染さんから住吉さんまで」といわれるように、6月30日の愛染祭に始まり、8月1日の住吉祭に終わる。現在でも市内の各地で夏祭が盛大に行われている。

宝恵駕籠行列で有名な四天王寺別院の勝鬘院愛染堂の愛染祭では、かつては今里新地などの芸妓衆が駕籠で練りながら参拝し、多くの人で賑ったという。また7月にある生國魂神社の渡御祭は、戦前は千人以上の行列だったという。話者の子供心にも行列の規模の大きさが深く印象に残っている。

七夕

七夕は新暦で行うところが多く、小さい笹に飾りをつけた。飾られた笹は、神社で焚くところもあれば、四ツ橋へ行って流すこともあったようである。

盆行事

盆は、旧暦の7月15日を中心とする前後数日間に、先祖の霊を迎えて送るまでの一連の行事である。関西などは一ヶ月遅れの8月に行われることが多く、今回の調査でも8月に盆行事が行われていることがわかった。盆が始まる日は「地獄の口開け」「地獄の釜開け」「地獄の釜が開くから仕事をしてはいけない」などといったようである。7日の七日盆には井戸の水を替えるところもあるが、数多くの井戸があった天王寺周辺地域で、この時期に井戸替えするということはほとんど聞かれなかった。ちなみに現在では少なくなりつつあるが、かつて上町台地には多くの水脈があった。玉造周辺では井戸が残っているところもあり、現在でも清水が湧き出ているとのことである。

先祖の霊は「おしょうらいさん」とも呼ばれ、霊を迎える時には玄関でオガラを焚いた。盆の期間の供物は、宗派によって異なる。供えるお茶は頻繁に交換し、「無縁法界」と唱えて庭先にまいたという。精霊送りでは四天王寺へ参るということであった。

地藏盆は各地域で盛んに行われ、戦前には夜店もたくさん出たという。

この時期には、「夏の大掃除」が行われ、印象に残っている人も多かった。

9月～12月

月見

月見は旧暦の8月15日にススキを飾り、団子・芋などを供え、月を鑑賞する行事である。調査では9月に行われ、月見だんごは丸い形状のものを供えた。また、小芋や他の野菜・スイカを供えるところもあった。

亥の子

亥の子は、旧暦10月の亥の日に行われる行事である。これは西日本の農村でよくみられるもので、この日には餅を搗いたり、小豆御飯を作ったり、炬燵を出すというところもある。一年の農耕が終わり、冬に入る節目として行う行事という性格を持ちながら、収穫の儀礼と結びついた伝承が多い。また猪が多産であることから子宝祈願や子供の成長を祈るところもある。

上町台地では、農事と深く結びついた亥の子の行事についてはほとんど聞かれなかった。ただ、

炬燵を出すという行事に関しては、12月の亥の日に「亥の子の晩に炬燵を入れる」という言葉があったそうである。「(この日の晩に)炬燵を入れたら火事いかへん」と母親や祖母が言うのをよく聞いたという。

神農祭

11月22、23日は、中央区道修町にある少彦名神社すくなひこなで神農祭が行われる。道修町は菓業の町で、1780年(安永9)、日本菓祖神の少彦名命と中国菓祖神の神農氏を勧請したのが神社の始まりである。神農祭は、1822年(文政5)に大坂でコレラが流行して以降盛大に行われるようになったようだ。この時、菓種仲間が疫病除けの丸薬を作り、その薬が神前で祈禱されて、人びとに施されたという。それとあわせて授与されたのが張り子の虎である。以来、笹につけた張り子の虎は厄病除けとして参拜者に配られるようになった。地元では「神農さん」で親しまれ、毎年お参りして張り子をもらいに行ったという。

報恩講

11月には浄土真宗の家で、開祖親鸞の忌日に報恩するための報恩講が行われた。その際には、座敷に屏風が飾られた。僧侶が家に招かれ、親戚や有志が集ったという。

七五三

11月15日には七五三が各神社で行われる。七歳・五歳・三歳とそれぞれの年齢に達した時に祝う行事である。戦前は、七五三も海軍や陸軍の軍服が多かったようだ。

オトゴノツイタチ

12月1日を関西以西では、「オトゴノツイタチ」というところが多い。乙子おとごとは末子の意味で、12月を指す言葉である。この日は1年の最後の朔日として末子の成長を祝い、餅や赤飯を食べる行事である。調査によると、大阪でも周辺部では、この日に「乙子の朔日参り」などといって、東大阪市の石切神社や地元の高津宮へお参りしたという。

針供養

針供養は、古針や折針の供養などをする行事である。行事は、2月と12月の両月とも行う地方や、どちらかの月に行う地方とがある。「針を休める」という意味を持つこともあり、古針を豆腐や蒟蒻あるいは餅や団子に刺したりする行事であり、特に裁縫関係に従事している人びとのあいだで行われることが多い。

調査では一般家庭においては針供養はあまりされておらず、仕立物屋などが行ったようである。話者によると、大阪天満宮の針供養では蒟蒻に針を刺したという。かつては女の子は小学校を卒業してすぐには家事をせず、2年間裁縫学校へ通う子がいたそうである。そうした学校に通う生徒は皆そろって針供養に行ったということである。

すすはら 煤払い

一年に一回、家の内外を大掃除する「煤払い」があった。煤払いは、正月準備の最初の段階であるとも考えられており、神棚・仏壇・玄関・便所・部屋などを掃除した。また、単に掃除だけでなく、家屋を清浄して年神を迎える準備をするという大事な意味合いがあるとされる。調査では、12月の中旬から下旬にかけて行われたようだ。また「煤払い」というと、お寺で行われる

行事というイメージを持っている話者もいた。

冬至

冬至は一年のなかでも、最も昼が短く、夜が長くなる日である。この日に短くなった陽光を再び元へ戻して、一日も早く暖かい春の日が訪れることを祈り、また体力の回復を願った。

調査によると、この日は南瓜を炊いて食べたり、柚子湯に入ったという。現在では年中食べられる南瓜だが、本来は夏野菜であったため、冬まで保管して冬至に食べたのだという。また戦前は、一般家庭に風呂が少なかったため、銭湯の柚子湯に入った。風邪を引かないために、湯呑みに白湯と柚子を入れて飲むようにとも言われた。

庚申さん

庚申の日とは、甲子などと同様に干支を組み合わせたものの一つであり、一年に6回まわってくる日のことである。四天王寺の庚申堂は日本の三大庚申の一つといわれ、縁日には無病息災を願って多くの人々が庚申堂へ参拝する。話者によると、堂の境内では風邪除けの蒟蒻が売られていたとのことである。また、猿を連れた豆売りもあり、豆を食べると歯ぎしりが治るなどといった。その他に、10軒ほどの昆布屋が並んでいたという。

話者によれば、庚申の日に人びとが集まる庚申講は大人の集まりであり、子供は参加しなかった。この日は夜を明かすところもあるが、その理由は人に害を及ぼす三戸^{さんし}という虫が体内におり、庚申の夜に人が眠ると体内から抜け出して天帝に日頃の罪を告げにいつてしまうからだという。天帝はそれを聞き、その人を早死させてしまうのである。こうした長生きを祈願する信仰は、庚申の夜は眠らずに起きている方がよいという中国の信仰（道教）によるものとされる。

むすびにかえて

今回の調査では、話者の幼少期がちょうど第二次世界大戦の最中もしくは戦後にあたっていたこともあり、その頃に行われていた年中行事は大変限られたものであった。しかし、戦時中の困難な時期にあっても守り続けられた行事もあることがわかり、当時の暮らしの歳時記を、記録として残すことができた意義は非常に大きいと感じる。

調査では年中行事のほかにも、戦争中の生活やさまざまな出来事についての貴重なお話をうかがうことができた。戦争中の上町台地における人びとの暮らしについての調査は、今後の課題である。

(藤岡 真衣)

5. 上町台地の信仰と民俗芸能

<上町台地を訪れた人々>

○正月に訪れた芸能者—伊勢神楽・獅子舞・万歳

- ・正月に訪れる芸能者は、玄関に紋幕を張っているときだけにやってきた（法円坂）
- ・「おことわり」というと家の中には入ってこなかった（上本町六丁目）

伊勢神楽—法円坂、上汐一丁目、大江の各地区に来ていた。

- ・太夫と才蔵。片方が太鼓を持っていた（法円坂）
- ・神楽講、伊勢講が2～3組、入れ替わり立ち替わり来ていた（法円坂）
- ・2～3人で来ていた（上汐一丁目）
- ・2人で来ていた（大江）

獅子舞—上町台地の各地域に来ていたようである。

- ・少なくとも3人で来ていた（獅子・囃子・太鼓）（法円坂）
- ・神社と関係なしで商売で来ていた（法円坂）
- ・玉造稲荷神社で出していた（玉造本町）
- ・万歳と一緒に来ていた（上汐一丁目）
- ・「キクダユウ」という人物が仕切っていたように思う。昭和30年代くらいまでか（大江）

万歳—上町台地の各地域に来ていたことがわかった。

- ・和服姿で年寄りの人だった（法円坂）
- ・伊勢か三河かはわからないが、三が日に来ていた（谷町六丁目）
- ・太夫と才蔵で片方が太鼓を持っていた（上本町六丁目）
- ・黒門市場には最近まで万歳が来ていた（大江）

伊勢神楽：今回の聞き取り調査で対象とした伊勢神楽は、「伊勢大神楽」とも呼ばれるもので、獅子舞と放下芸（曲芸）とで構成される神事芸能である。演目は獅子舞の舞と放下芸を合わせて十六曲あり、これらの曲目を演ずることを総舞（総舞わし）という。

伊勢大神楽は、各地域の行事とさまざまに結びついている。訪れていた組が廃業になっても、その地域での年中行事として伊勢大神楽の存続をはかるところもある。

今回の調査地域では、どの組が廻ってきたのか、あるいは、地域の行事と結びついたものだったのかはわからなかった。

万歳：万歳の代表的なものとして大和万歳、三河万歳、尾張万歳がある。万歳は主役の太夫（徳若）とそれに従う才蔵（才若）の二人連れで、太夫は扇、才蔵は鼓を持つ。太夫がめでたい歌を歌いながら扇をひろげて舞い、才蔵は鼓を打ってその伴奏をし、合間に入

れる滑稽を受け持つ。大阪には、大和万歳が回っていた。大和万歳は宮中や京都所司代に参入した由緒あるもので、明治時代までは新年に京阪の家々を訪れていたが、戦後廃絶した。

○日常的に訪れていた商売人

- ・シガラキヤキ屋（蒸し器で栗餅を蒸す）
- ・飴屋（シンコ細工）
- ・紙芝居（学校の先生は見に行くことをあまりすすめなかった）
- ・富山の薬売り
- ・鯛売り
- ・盆栽
- ・笹（イカキ）屋
- ・団子屋、すし屋
- ・ポン菓子屋さん

<上町台地の伝説・聖地>

天神橋付近のお稲荷さん：天神橋の橋詰めのところに醤油問屋があり、そこはお稲荷さんを盛んに信仰していた（夏のお稲荷の日だったように思う）。

法円坂の巳さん：法円坂の長屋のところに祠があった。

法円坂の胞衣塚：法円坂・寺山住宅のところに豊臣秀頼の胞衣塚があった。祠があり、林のようになっていたが、現在は玉造稲荷神社に移転している。

真田山のお地藏さん：家の前の地藏はその家のものである。他に町内には地藏が4つある。

空堀のイチョウの木：イチョウの木に注連縄を張っていた場所があったが、現在は無い。

谷町八丁目のクスノキ：聞き取り調査では話が出てこなかったが、話者の自宅近所には大きなクスノキがあり、「楠木大神」として最もよく知られた路傍樹がある。

<さまざまな講>

上町台地の各地区で大峯講に多くの人に参加していたことがわかった。東高麗橋の地域には、大峯講が2つあったということである。講は大峯講の他に、伊勢講もあったらしいが、「祖母が入っていたかもしれない」ということで、詳しいことはわからなかった。また、四天王寺に近い地区では、庚申講が盛んだったこともわかった。

（和住 香織）

話者の方がた（五十音順・敬称略）

朝田 修雄	築山 敬志朗
上野 誠市	筒井 務
岡田 孝輔	中嶋 平一郎
角野 桂次郎	中村 耕一
金丸 嶺子	西村 久子
北井 彩乃	西山 暢一
熊谷 晃一	濱田 俊男
渋谷 松士	平野 義弘
庄野 節子	福田 紀一
菅原 純子	八木 治助
谷池 国夫	柳原 勝

調査協力者

鈴木 一男（玉造稲荷神社 宮司）

調査担当者

- 黒田 一充（関西大学文学部教授、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター研究員）
櫻木 潤（関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター ポスト・ドクトラル・フェロー）
藤岡 真衣（関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター リサーチ・アシスタント）
和住 香織（関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター リサーチ・アシスタント）
吉野 なつこ（関西大学大学院博士課程前期課程）
山中 春香（関西大学大学院博士課程前期課程）
三十木 桃子（関西大学学部生）
庄野 明（関西大学学部生）

参考文献

- ・高谷重夫『日本の民俗 大阪』第一法規出版社、1972年
- ・宮本又次『毎日放送文化双書 8 大阪の風俗』毎日放送、1973年
- ・原 泰根「大阪府の歳時習俗」(『近畿の歳時習俗』明玄書房、1976年)
- ・牧村史陽編『大阪ことば事典』講談社、1979年
- ・大阪府神道青年会編『大阪の祭り』大阪府神道青年会、1980年
- ・『大阪府民俗地図 一大阪府民俗文化財分布調査報告書一』大阪府教育委員会、1984年
- ・大阪市立博物館編『特別陳列 おおさかの祭り』大阪市立博物館、1994年
- ・『大阪人 特集天神祭』第56号、財団法人大阪都市協会、2002年
- ・旅行ペンクラブ編『大阪の祭』東方出版、2005年
- ・黒田一充「大阪の夏祭り調査」(『なにわ・大阪文化遺産学研究センター 2005』関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター、2006年)
- ・三善貞司編『大阪伝承地誌集成』清文堂出版、2008年
- ・大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)編『上方演芸大全』創元社、2008年
- ・北川央著、北川央・出水伯明写真『神と旅する太夫さん 国指定重要無形民俗文化財「伊勢大神楽」』岩田書院、2008年

調査報告書

上町台地暮らしの歳時記

発行日 2009年3月31日

監修 黒田一充

編集 櫻木 潤・藤岡真衣・和住香織

発行 関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学博物館内

TEL. 06(6368)0095 FAX. 06(6368)0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/naniwa/>

印刷所 株式会社NPC コーポレーション